NIE実践報告

1．タイトル：主題名／やりとげる心と力

2．学校名

北九州市立八幡小学校

3．実践者名（代表者名）

福田　敬生

4．学年

第４学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳　２５名（１クラス）

6．単元（本時の学習課題）名

「ノーベル賞の生みの親―アルフレット・ノーベル―」〔主題名／やりとげる心と力〕【中学年１－（２）勤

7．目標（狙い）

人には、あきらめずに探究し続けることで何かを成し遂げることができる力があることに気づき、目標に向かって努力しようとする意欲と希望をもつ。

8．評価の視点

自分には何ができるのか、何がしたいのかを考えさせて、それに向かって努力しようという意欲を高めることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

１２月教材として１時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１．新聞記事を読んで、今年ノーベル賞と受賞した人々について知り、彼らがどのようなことをした人物なのか調べる。
２．ノーベル賞とはどのような賞なのかを話し合い、資料「ノーベル賞の生みの親」を読む。
３．アルフレッドの努力の道のりについて話し合い、「がんばる」とはどういうことなのか、考える。
４．アルフレッドやノーベル賞を受賞した人々の努力について、これからの自分自身の生き方に置き換えて考える。
（留意点）
○ノーベル平和賞を受賞した3人の女性（エレン・ジョンソン・サーリーフ、レイマ・ボウィ、タワックル・カルマン）についての新聞記事を配布し、線を引かせたり興味をもった文を選ばせたりして、考えを深められるようにする。
○ノーベル賞の創始者、アルフレッド・ノーベルが、どのような思いでダイナマイトをつくったり賞を創設しようとしたりしたのかを読み深めさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

世界には、さまざまな国で人の幸福のために努力し続けている人がいて、多くの人々が支え合って生きていくことが大切であるという意識を高めることができた。また、自分できめた目標に向かって、あきらめることなく努力を続けることで、何かを成し遂げることができ、達成したことにはすばらしい価値があるということを

12．成果と課題

○中学年でも新聞記事に関心をもち、最新の、かつ正確な情報を伝えることができる有効な手段であるということを意識させることができた。
○身の回りで起こっている出来事を知るための資料として、また、社会科などの調べ学習の資料の一つとして、新聞が有効に活用できるという意識を高めることができた。
●新聞をとっていない家庭はますます増加してくるものと考えられる。その子どもたちに新聞の有効性をどのように意識させ、新聞を活用していくのか検証の必要がある。